

「自然災害伝承碑」について

- ◆ 過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害の状況など）が記載されている石碑やモニュメントです。
- ◆ 当時の被災状況を伝えると同時に、当時の被災場所に建てられていることが多く、地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つと期待されます。
- ◆ 2万5千分1地形図に地図記号として掲載をしているほか、地理院地図ではアイコンをクリックすることで、碑の写真や伝承する災害名、伝承内容などを確認できます。



地図記号



※以前は、概念的に記念碑 [U]（ある出来事や人の功績などを記念して建てられた碑やモニュメント）に含まれていました。



地理院地図
表示アイコン



地理院地図（自然災害伝承碑を表示）

水害碑

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦 四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集
制限事項	

ID:34309-002



自然災害伝承碑ホームページ

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）

平成30年7月豪雨により発生した土砂災害で多くの犠牲者が出た広島県坂町では、100年以上前の大水害の被災状況を伝える石碑が現地に建立されていたものの、地域住民にその内容が十分に伝承されていませんでした。

このような経験から、**過去の自然災害の教訓を適切に伝承**するとともに、**教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減**をめざし、国土地理院で情報の整備と公開を開始しました。



写真提供：大阪府警察

【水害碑（広島県坂町）の伝承内容】

明治40年（1907）7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。

平成30年7月豪雨当時、避難勧告を受けた小屋浦地区の住民の避難率は、坂町全体の半分程度にとどまっていた。